

五十嵐先生追悼記念ライブCD(全50分丸数字はトラックの番号)
いまよみがえる55年前のタイムカプセル



内容：横高校内合唱コンクール（3年の部～表彰式・全員合唱）
収録日：昭和41年12月20日 場所：横高体育館

会場アナウンス（ ）：「プログラム第17番 3年3組 はるかな友。」
3年3組 責任者：吉川 真理 指揮：（ ） 伴奏：（ ）

①課題曲「花」3分

武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲、明治33年（1900年）発表、西洋音楽技法による最初の日本歌曲、初の合唱曲と言われた、時に廉太郎21歳、翌年には「荒城の月」（最高の日本歌曲と言われるが原曲がメロディーだけだったため後に様々な編曲や伴奏が試みられている、最も成功しているのはロジェワグナーかも知れない）や「箱根八里」と名曲が続く、童謡「お正月」も滝の作品。しかし翌々年23歳で還らぬ人となった。彼にあとせめて10年の生があったらどんな傑作が生まれていたことか、惜しまれてならない。まさしく「Ars longa vita brevis」！

なお、あの筑紫哲也は滝の妹の孫で、滝廉太郎記念館の名誉館長を勤めた。

「花」は2声と素晴らしいピアノ伴奏譜からなる。この伴奏譜はそのあまりの魅力から、ついピアノが前に出過ぎて「バックコーラス付きのピアノコンサート」のような演奏になりやすい。「合唱」コンクールでは伴奏がボーカルより大きすぎないようにバランスを取ることが重要。参加19チームのうちいくつかはこの「魅力ゆえの落とし穴」に、はまったかもしれない。この3組の演奏は55年前の教室の風景が蘇るような

可憐な名演。比類なき清純。気持ちよく、心温まる演奏。

②自由曲「はるかな友に」3分



当時の人気曲。慕情豊かなしっとりとした、毎日でも聴きたくなる好演。

この曲は磯部俣が早稲田大学グリークラブを率いて合宿中、即興で作詞・作曲したという、無伴奏の男声合唱曲だった。はしゃぎまわる学生

を早く寝かそうとして作ったとの説もある。

また同氏は男性カルテット・ボニージャックスの名付け親だと言われている。

この3組の演奏はピアノ伴奏付きの女声合唱、やや強めではあるが、それにしてもプロの演奏には無い不思議な魅力がある。このCDがある限り、市販の演奏は聞く気になれない。しいて言えばロジェワグナー合唱団の演奏位か。

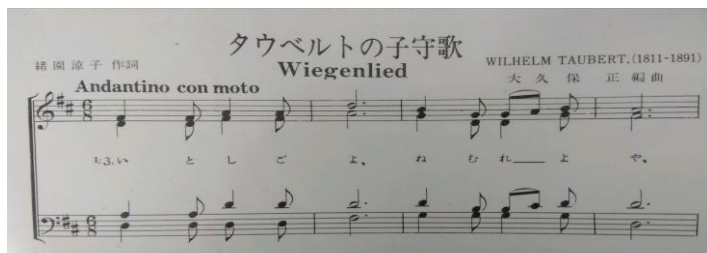
会場アナウンス：「プログラム第18番 3年4組 タウベルトの子守唄、指揮は田中淑子さんです。」
3年4組 責任者：高橋 満里子 指揮： 田中 淑子 伴奏：（ ）

③課題曲「花」3分

これはすごい！まさに春爛漫の桜堤を見るかのようなあでやかな演奏。正確無比の音程・発声もいささかの作為さえ感じさせず、超高校生レベル。これは音大だ芸大だ。もはやプロ級、いやプロよりいいかも…この声はきっと○子さんや△子さんだろう…それにしても3年生は大混戦、全く異なる溢れる個性をどう評価するのか？持ち味が違い過ぎる。審査員は頭を抱えたことだろう。技量の優劣は何項目かで集計できるが、もっと大切な「音楽性」や「人間性」は各々異次元のもの、優劣を考えるのはナンセンス。3チーム皆最優秀賞なんて粋な計らいが皆納得の正解だろう！ しかし当時の何でも順番をつけるという

呪縛、審査員はお気の毒。そんな議論をしたくなるほど3チームの内容は感動的だった。このCDには単なる記録を超えて、愛聴を続ける価値がある演奏がいくつも入っている。

④自由曲「TAUBERTの子守唄」3分



珍しい佳曲。タウベルトは1811年生まれ・ドイツの音楽家、ショパンやワグナーと同時代の人。詩は諸園涼子。当時、この楽譜はなかなか手に入らない、メンバーの声質を活かした絶妙の選曲はさすが4組、といっても4組でこんな選曲のできる人といえ

…。僅かなアンサンブルの乱れを補って余りある素晴らしい歌声はまさに「天使

の声」。のびやか・つややか・高貴な喜びと慈愛・そしてかすかな哀しみ。演奏はピアノ伴奏付き、ピアノのアルペジオとボーカルの相性が抜群、何度でも聴きたくなる名演、筆者が聞いたどの演奏家のものより断然いい。これは宝もの。この演奏を残してくれた4組の皆さんに感謝。

会場アナウンス：「プログラム第19番 3年8組 河童昇天、指揮は 大井 英章 君です。」
登壇途中からの拍手や歓声は不思議、おそらく1・2年生に大人気のM君やI君のせいかな？
3年8組 責任者：大井 英章 指揮：大井 英章 伴奏：伊藤 律子

⑤課題曲「花」3分

後の特別演奏に備え一気に沢山の曲を詰めこみ、結局練習不足でパニック寸前のもやもや

をはじき返すような澁刺とした演奏、純朴な青春の香り、楽しさと団結の結晶のような演奏。クラスが違うので伴奏との練習はあまりできなかったのだが…とにもかかわらずピアノが素晴らしく、伴奏は冴えに冴えた。ボーカルより大き過ぎず小さ過ぎず、ピタリとタクトをとらえ、緩急も強弱もボーカルと一心同体、ボーカルとときかけあい、ときからみあう。後奏の終わり方のなんと見事なこと！これはもはや伴奏というよりボーカルとの「共演」。輝かしいピアノの軽快なリズムに乗って8組50名の全男子は180秒をあっという間に駆け抜ける。指揮と伴奏とボーカルは一体になれたか！ピアノとはこんなに素晴らしい楽器だったのか、この演奏、ボーカルよりピアノに注目して聴きたい。

⑥自由曲「河童昇天」3分



作詞は神保光太郎、作曲者の石河清は福島県を合唱王国に導いた人。高校生にはとてつもない難曲、発生の訓練を受けていないでこの曲を歌うのはきつい。難曲故か、川越高校がNHKのコンクールで歌って以来、あまり演奏例が無いらしい。力で押し切った演奏。

この選曲は冒険・無謀、今なら到底選ぶ勇氣は無い。箱根八里・イタリー語で帰れソレントへなど安全策を取るほうが賢い。「ウ・ボーイ」や「君といつまでも」は盛り上げる必要がある特別演奏にとっておきたい。しかし、3組・4組の圧倒的な歌唱力には「所謂上手な演奏」では対抗できないだろうということもあるが、良い成績よりは冒険やロマン！なにより、この曲をやってみたいという曲の魅力が大きかった。

演奏は無伴奏男声4部合唱。伴奏が無い分、音程も取りにくいですが男声合唱の魅力は出せる。出だしが十分合わずやりなおしている。前代未聞、文字通り肝を冷やしたがその分永く記憶に残った。

それにしてもなんて大きな声、体育館の奥の壁から残響がステージに跳ね返って来た。

今でもみんなが一番覚えているのはこの残響。

しかし…いくら指揮者が思いっきりやろうと言ったからって、やりすぎだろうこれは！
コンクールなんだよきょうは！丁寧にとか上手にとかは忘れちゃったのかなあ？

…まあいいか、青春だもんね！日頃の8組そのまんま！

⑦五十嵐先生アナウンス1分「審査終了迄3年8組男声合唱団の素晴らしい…お聴きください」

特別出演 3年8組（男声4部合唱 指揮・曲名紹介：大井 英章）

引き受けてはみたものの、まさに五十嵐先生の警告『沢山の曲をやるのは無謀よ』のとおり、コンクールの課題曲と自由曲に下記6曲、合わせて8曲もの練習は短期間ではやはり無理、課題曲・自由曲共に大きく「外して」かえって気が楽になったかこの6曲は「未完成」ながらほぼノーミス。この日、8組はベースに多く人数を配したパート編成で重低音狙いが特徴、これはメロディーや高音で魅了するのは難しいから高音勝負を避けること・発声の良い高音は低音に乗り軽く歌うことで後の長丁場まで持ちこたえること…等の計算による。しかし

それは半分しか成功していない。すなわち低音は終始申し分なくよく響いたが、高音は特に合図した箇所以外、頑張りすぎる場面が多く、抑えきれなかった。分厚い低音の上で軽く歌って欲しかった高音のブレーキはずれ、結局全員がガンバってしまった！フォルテやクレッシェンドの時はみんな特に楽しそうだった。ともあれ雰囲気だけはなかなかのもの。むしろ訓練された声にはない素朴な「味」が？とにかくみんな頑張った。練習の時、「今日はここまで」と言うて決まって誰かが「もっとやろう」とか「これで間に合うのかい？」とか言い出す、みんな本当に熱心だった。鳴りやまぬ拍手に応えたアンコール曲「君といつまでも」は会場とステージが一体、みんなリラックス出来て楽しんだ。これが至福の時というものか？ 五十嵐先生は審査員ではないから、どこかで聞いていてくれたはず、ときにドキドキハラハラしながら・ときに「うん、そうよ、よしよし」と目を細めながら・ときに大きな拍手をしてみんなと楽しみながら。先生の顔を見たかった、しかしとにかく会場はとてつもない人数、ほとんどの時間会場に背を向けていたから、ステージからはとうとう見つからなかった。

⑧いざ起て戦人よ 2分

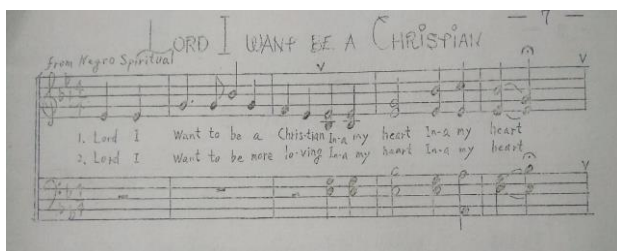


（特別出演冒頭の一言挨拶とこの曲名紹介があったはずだが収録されていない）

作詞は藤井泰一郎、教科書記載の作曲者はグラナハムだが、後に米国のJ.マクグラナハンの作曲とされた、これはまあある話。

あの明治17年の小学唱歌「仰げば尊し」もルーツがわかったのはなんと2011年だった。（1871年米国で出版の歌曲集、作詞：T.H.Brosan 作曲：H.N.Dが原曲という）

⑨Lord I want be a christian 3分

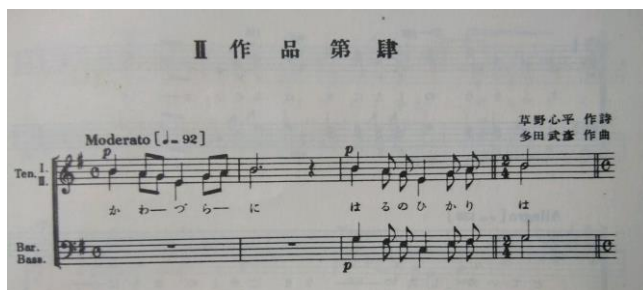
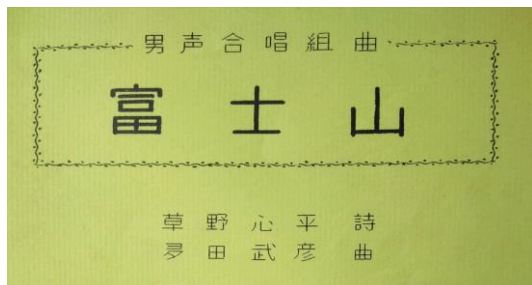


当時愛好された黒人霊歌 短曲だが高音のフォルテが沢山ある。実はこのあたりで問題が発生していた、少し高音にかげりが…無理もない、初めて経験する長いステージ、次はもう5曲目・最も長い曲、その後にもきつい曲が待っている、

コンクールから休み無しで、緊張に次ぐ緊張、のどもカラカラ。さてどうするか？
審査はまだまだかかるだろう、

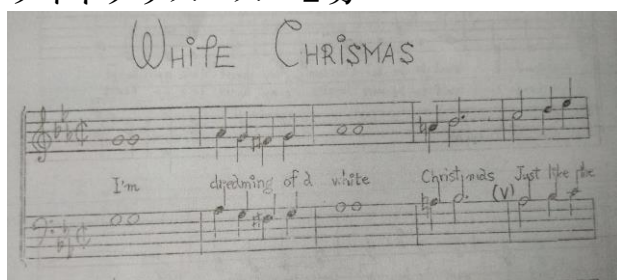
一旦降段して小休止すれば時間も取れて一石二鳥、それが最善。しかし踏み切れず、…結局、トップはこの人達・リードはこの辺・ボクの後ろがバリトン・ベースはそこと各パートの紹介をおこない、少し元気回復。この時間稼ぎは収録されておらずCDはすんなり次に進んでいる。今思えば1～2曲残して小休止を取り、審査員の到着を待ち、再登壇して演奏、審査発表につなげることにしておけば審査時間がどうなっても万全の備えだったがそこまでは考えが及ばなかった。
しかし幸運か先生方の配慮か、意外と審査が早かったので会場の雰囲気は保たれた。

⑩組曲「富士山」より作品第肆 4分



富士を臨みヨシキリが鳴き陽光あふれる春の土堤、花輪を作り縄跳びをする楽し気な少女達、(おそらくは)仲間に入れて欲しいのにそれが言えない(そういえば自分にも何度かそんなことがあったような)少年…草野心平の詩が冴えわたる。作曲は当時大学のグリークラブで大人気、膨大な作品を残した多田武彦氏、なんと本業は京大卒の銀行マン。お宅に伺うと丁寧に独自の演奏理論を披露された。戴いたテキストは「音楽の表現に関する留意事項」全8頁、今でも大切に保管してある。簡潔明瞭、名演奏の秘密がわかる気がした…いつか誰かに伝えておきたい。奥様が、見たこともない紅茶やケーキでもてなしてくれた。「どうぞ 召し上がれ」と言う奥様のここに顔は、「飲みなあ」「食いなあ」のオバサン達の社会で育った若者にはあまりにまぶしく、かあつと頭に血がのぼってしまい、どんな味だったかさっぱり思い出せない。しかし、この日教わった理論は今でもよく覚えています。ありがとう多田ご夫妻！

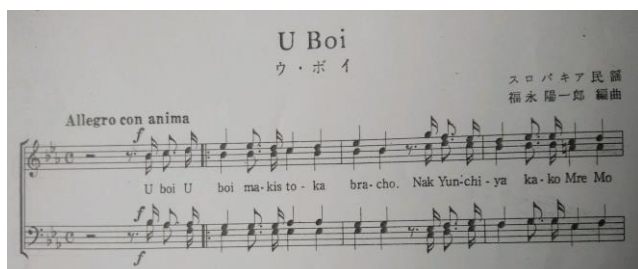
⑪ホワイトクリスマス 2分



アーヴィング・バーリンの作詞作曲、ビング・クロスビーのレコードが空前の大ヒット、フランク・シナトラやパット・ブーン盤もヒットした。ビング・クロスビーとダニー・ケイの共演したヒット映画「ホワイトクリスマス」のテーマソングでもある。

本来、卓越した個人芸に映える曲で、編曲や合唱は難しい。本譜面の編曲者は不明だが、横須賀学院中学校聖歌隊で使用されていたもの。もうすぐクリスマスなので演奏効果よりは「お楽しみ」のつもりだったが、1年生やレスリング部など3団体が自由曲で歌ったのは驚き。曲名アナウンス時の会場のどよめきもこの競合のせいかな？

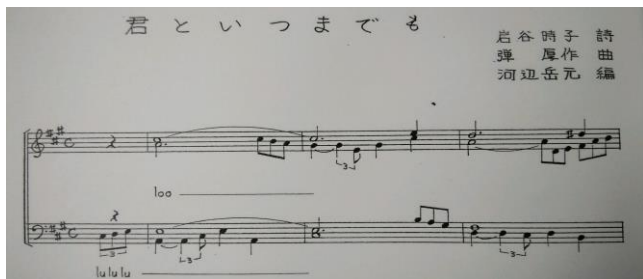
⑫進めわが同胞よ 4分 原題は U Boj ウ・ボイ



永年、関西学院グリークラブの秘蔵曲だったが流出後、各グリークラブで大流行して今に至る男声合唱のバイブルとも言われる名曲。言語不明のチェコ民謡とされていた。実はクロアチアの歌・日本に伝わった経緯・歌詞の正確な復元解明等が実現したのは平成4年のことだった。

この「ウ・ボイ」の数奇な物語についてはエピソード集に別記。原語で歌うともっと勇壮で迫力がある。この演奏は日本語だが、それでもかなり盛り上がるも、バリトンやベースはともかくトップやリードはもうヘトヘト、気力だけで歌っている。ともあれ最後のクレッシェンドを終え、鳴りやまぬ拍手の中、終了を宣言。…審査員が戻って来たのは意外と早かったのかもしれない、「待った記憶」が無い。ひょっとするとこの曲の途中あたりだったか？それとももう少し前か後か？全く覚えていないのは不思議。これも余裕の無さか。

⑬アンコール&フェアウェル：君といつまでも 5分（ナレーションは8組 増田 修一君）



作詞は岩谷時子、作曲は弾厚作（あの加山雄三…明治の元勳岩倉具視の玄孫）のペンネーム。昭和40年12月5日リリースで大ヒット、翌年（ちょうどこのコンクールの頃、加山は日本レコード大賞の特別賞を受賞した。思えばまさしく「時の人」の「時の曲」だった。コンクールの55年後、加山は文化功労賞（終身非課税年金350万円）を受賞する。

編曲が素晴らしい。いつだったかどうしても思い出せない

五十嵐先生：『大井君、この楽譜をあげましょう。あなたならいつか使うこともあるでしょう。編曲したのは河辺君、あなた方の先輩よ！（高15期2組の河辺岳元氏のこと）』
先生・河辺先輩、素晴らしい編曲、ありがとうございます。やっとなんか活かしましたよ！
…しかし以後この曲と「花」そして「風」は55年間一度も演奏していない。
五十嵐先生の思い出が強すぎてどうも演奏する気になれない。

ようやくたどり着いた最後のステージ。ゴールを噛み締めるようなゆったりとしたテンポ。長身の増田君が進み出ただけでもう拍手が始まり「しあわせだなあ」の一言で会場はワアッと大興奮！「いいだろッ」と締めると拍手と大歓声（失神者出ないだろうな）。

…ハミングのクレッシェンドで全ての演奏が終わり、最後の一人がステージを降りるまで拍手が続いている。どうするか？ アンコールの準備はこの一曲だけ、ステージに戻ってもう一度歌うか？迷う中、フト気がつけば、そこに五十嵐先生、どこで聴いていたのか？ 8組特別演奏による「先生の時間稼ぎ作戦」完成の瞬間。助かった・終わった・疲れた！

⑭講評（五十嵐先生） 4分 要旨：『難しい曲でなくてもいいんです。これからも楽しく沢山歌ってください、指揮をよく見て、指揮者と伴奏者と歌う人、みんなが力を合わせる事が大切なんです。』

⑮順位発表（五十嵐先生） 3分 1年生・2年生・3年生・レスリング部

⑯表彰式（山岡校長） 5分 1年生・2年生・3年生・レスリング部


賞状の読み上げが実に名調子。しかも最初の表彰が珍しかった。最後に高らかに「山岡嘉次」と読み上げて終わる…これが普通のパターンだが、なんと彼は自分の名前を読まなかった。少しも力まず、スパッと「学校長！」と言い放って賞状を渡した、それが何とも爽やかで格好いい。これぞ山岡流か？

⑰フィナーレ：全員合唱「花」 4分 指揮：大井 英章 伴奏：（ ）

突然の指名だった。『大井君こちらへいらしてください』には本人もびっくり。もっともコンクールの結果が出る前から決めておける人選ではないのはわかるけど『ひょっとしたらお願いするかも』くらい言っただけよ！相手は全校生徒だよ、そんなのやったことないよ、何百人もの女子に3分間も見つめられるんだよ、失敗したら恥ずかしいだろ。中学の卒業式だって指揮したのは百二十人たらず（もっとも父兄や教職員が大勢居たが）そもそも全員合唱なんかあるんだっけ？先生が跡片付けの指示で時間を稼いでくれている間にかろうじて、大勢だからテンポをゆっくりにしよう位考えるのが精一杯、ともあれなんとか全員合唱が


終わりにかける頃から会場はなぜか大興奮。ピアノの後奏がまだ終わらないうちから拍手が沸き起こった。五十嵐先生の終了宣言や片付け指示の声はかき消されそう、もう大騒ぎ、ワッショイワッショイと胴上げの声の中、録音は終了している。五十嵐先生の「最後のコンクール」は、こうして大盛況の内にその幕を閉じた。みんなこんなに盛り上がってくれてホントに良かったネ、オメデトー、センセ！
55年前 体育館の一日 若かった みんな 若かった。
先生が天国の人になったのはこの僅か8か月後のことだった。Then Farewell

花



眺めを何にたとうべき
げに一刻も千金の
くるればのぼるおぼろ月
錦おりなす長堤に

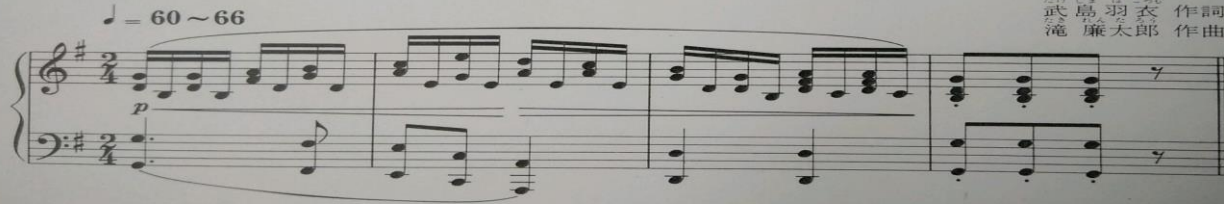
見ずやあけぼの露浴びて
われにも言う桜木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさしまねく青柳を



春のうらの隅田川
のぼりくだりの船人が
權のしずくも花と散る
眺めを何にたとうべき

武島羽衣 作詞
滝 廉太郎 作曲

♩ = 60 ~ 66



昭和41年度校内合唱コンクール（出場順）

出演順・組別	順位	人数	責任者	指揮	曲目	
1	I-7	努力賞	全員	斎藤 滋		赤い河の谷間
2	I-4		全員	田上公忠	田島俊治	もみの木
3	I-1	①	全員	勝本敏幸		諸人こぞりて
4	I-2	③	全員	佐々木温子		山寺の和尚さん
5	I-8		全員	長谷川茂	澁谷 治	ホワイトクリスマス
6	I-3	②	全員	鈴木直樹	鈴木直樹	ホワイトクリスマス
7	II-6		全員	相澤正紀		雪の降る町を
8	II-8	努力賞	全員	菅原光俊	菅原作詞	若い泉：作曲広瀬信夫
9	II-3		全員	西野康巳		菩提樹
10	II-7		全員	間山・富野	村岡	おお牧場はみどり
11	II-2	③	全員	桑江みな子		故郷をはなるる歌
12	II-5	①	全員	寺坂良明		若者たち
13	II-1	②	全員	市川忠造	木村友衛	悲惨な戦争
14	II-9		全員	岩澤信夫	中丸清博?	フニクリフニクラ
15	III-3	③	女性	吉川真理		はるかな友に
16	III-4	②	女性	高橋満里子	田中淑子	タウベルトの子守唄
17	III-8	①最優秀	全員	大井英章	大井英章	河童昇天
18	Wrestlingclub	努力賞	15	佐々木信幸		ホワイトクリスマス
19	Scienceclub		10	角田利勝		ともしび

○特別出演：3年8組男声合唱団 指揮：大井 英章

1. いざたて戦人よ 2. Lord I want to be a christian 3. 富士山 4. White Christmas
5. 進めわが同胞よ アンコール：君といつまでも 編曲：河辺岳元（卒業生）

注：①上の写真は今回、中学3年の教科書からとった。

②下のプログラムは唯一の残存資料の転記。五十嵐先生の直筆か？達筆でスラスラ書かれていたが、おそらく作成途中のもの。出場順も録音では3年生が最後に来ている。指揮

者の欄も空欄が多い。「特別出演」は書いてあったが「全員合唱」は記入されていない。

③人名は不鮮明だったが卒業生名簿と照合して推測。

④人数蘭、原紙ではⅢ—3が20名、Ⅲ—4は空欄だった。録音内容から各々女性とした、女性全員なら各々20名前後だが録音ではもう少し少ない印象。Ⅲ—8は50名だった。

た。

⑤順位蘭は無く、Ⅲ—4指揮者は空欄だった。表彰式の音声から聞き取って追記した。

⑥右端にあと2列、課題曲、自由曲の2欄があった、これは採点用の欄か？

⑦作成途中の資料が何故筆者に（そして今回提供者のM.T君に）渡ったのか、経緯不明。